

[鉄道バリアフリー料金制度 届出の概要]

(1) バリアフリー整備計画

- ・計画期間：2021～2030年度 総整備費：約305億円
- ・整備方針：料金收受エリア内において、国の定める整備目標を踏まえながら、お客様のご利用の多い駅からホーム可動柵（5駅16番線※）の設置を進めるとともに、ホーム可動柵・エレベーター等のバリアフリー設備の更新及び維持管理を行う。

※ホーム可動柵（5駅16番線）の詳細

新幹線	新大阪駅（20、21、22番線）
在来線	名古屋駅（1、2、5、6、7、8番線）
	金山駅（1、2、4番線）
	千種駅（1、2番線）
	大曾根駅（1、2番線）



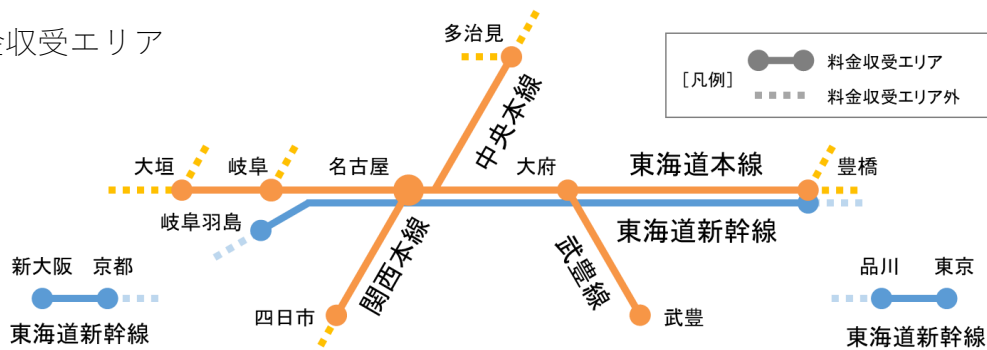
(2) 料金設定

料金收受エリアにおいて、下表に記載の料金を旅客運賃に加算します。
小児は旅客運賃に料金を加算した大人の半額となります。
なお、通学定期旅客運賃には加算しません。

①料金設定額（大人）

普通旅客運賃	定期旅客運賃（通勤）		
	1カ月	3カ月	6カ月
10円	300円	900円	1,800円

②料金收受エリア



- 【在来線】
 - 名古屋地区：[東海道本線] 豊橋駅～大垣駅間
 - [中央本線] 名古屋駅～多治見駅間
 - [関西本線] 名古屋駅～四日市駅間
 - [武豊線] 大府駅～武豊駅間
 の各駅相互間
- 【東海道新幹線】
 - 東京地区：東京駅～品川駅間
 - ※フレックス定期券のみ東京駅・品川駅～新横浜駅間
 - 名古屋地区：豊橋駅～岐阜羽島駅間
 - 関西地区：京都駅～新大阪駅間
 の各地区における各駅相互間

③料金收受開始時期

- ・2024年4月1日（名古屋地区）
- ※東京地区、関西地区はJR他社の同制度開始時期にあわせて開始済

2023年度 バリアフリー整備等実績

鉄軌道事業者名	東海旅客鉄道株式会社
---------	------------

本年度整備費	2,424 百万円
--------	-----------

※端数処理の都合上、様式2-2の整備費の合計とは異なる。

整備完了実績（設置又は改良であって、本年度供用を開始したもの）		
設備名	整備数	駅名
ホーム可動柵	1 駅 1 番線	名古屋駅
備考		

※整備内容の詳細については様式2-2に記載すること。

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

料金徴収によるホーム可動柵設置番線数・段差解消駅数		
ホーム可動柵設置番線数	1 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	- 駅
	二経路以上確保駅	- 駅

本年度徴収額	12 百万円		
(内訳)			
	定期外（普通券など）	通勤定期券	通学定期券
徴収額 (百万円)	8	4	0
備考			

本年度までの累計整備費	8,080 百万円
本年度までの累計徴収額	12 百万円